

逗子市災害廃棄物処理計画について

令和2年10月

環境都市部 資源循環課

計画策定の背景

- 平成23年(2011年)3月 東日本大震災の発生
- 平成26年(2014年)3月 環境省が「災害廃棄物対策指針」を策定
- 平成28年(2016年)1月 環境省が廃棄物処理法に基づく基本方針を改正
- 平成29年(2017年)3月 神奈川県が「神奈川県災害廃棄物処理計画」を策定
- 平成30年(2018年)1月 環境省が「災害廃棄物対策指針」を改定

災害廃棄物処理計画の策定状況

2015年(平成27年)3月末現在

都道府県 21% (都道府県数 47 回答数 47 100%)

市区町村 33% (市区町村数1741 回答数1716 98.6%)

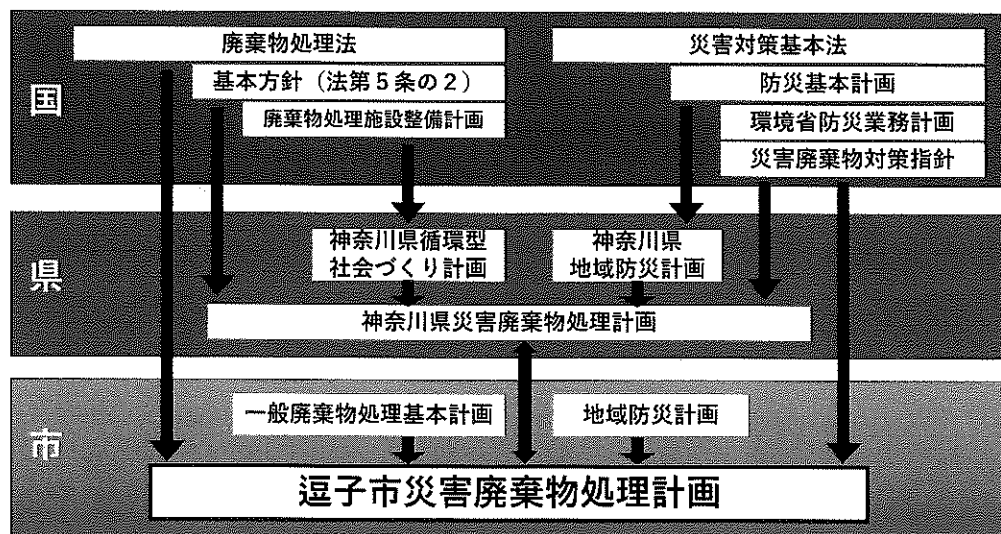
2020年(令和2年)3月末現在

都道府県 98%

市区町村 52%

出典:環境省 災害廃棄物対策情報サイト 自治体アンケート

計画の位置づけ



役割分担

■市の役割

廃棄物の処理、仮置場の設置、仮設トイレなど

■県の役割

情報提供、技術的支援、広域的な支援体制など

■廃棄物事業者・団体の役割

協力協定に基づく支援

■事業者等の役割

有害廃棄物等の適正処理

■市民の役割

分別ルール、排出先の厳守

対象とする災害

地震災害、風水害、その他自然災害を対象とし、次の規模を想定します。

■想定する地震災害

想定地震名	モーメントマグニチュード	備考
都心南部直下地震	7.3	首都圏付近のフィリピン海プレート内での都心南部の直下を震源
三浦半島断層群の地震	7.0	三浦半島断層群を震源域とする活断層型の地震
神奈川県西部地震	6.7	神奈川県西部を震源域
東海地震	8.0	駿河トラフを震源域とする地震
南海トラフ巨大地震	9.0	南海トラフを震源域とし、国が想定するあらゆる可能性を考慮した南海トラフの最大クラスの地震
大正型関東地震	8.2	相模トラフを震源域とする1923年の大正関東地震を再現とした地震

■想定する風水害

災害	発生年月日	被害状況(戸)
昭和41年 台風4号	昭和41年 6月28日	全壊1、半壊2、一部損壊3、床上浸水120、床下浸水320
昭和36年 集中豪雨	昭和36年 6月28日	全壊3、半壊4、床上浸水1,636、床下浸水1,491

災害時に発生する廃棄物

(1)地震等の災害によって発生する廃棄物(災害廃棄物)

(例) 可燃系混合物 不燃系混合物 木くず コンクリートがら 畳・布団
金属くず 廃家電 廃自動車 有害廃棄物 など

(2)被災者や避難者の生活に伴い発生する廃棄物

(例) 生活ごみ 避難所ごみ 仮設トイレのし尿 など



出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/terms/)



出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/terms/)



出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/terms/)



出典：災害廃棄物対策フォトチャンネル
(http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel/terms/)





災害廃棄物の推計発生量

■想定する地震災害での災害廃棄物推計発生量

対象地震	都心南部直下地震	三浦半島断層群の地震	神奈川県西部地震	東海地震	南海トラフ巨大地震	大正型関東地震
発生量(t)	160,200	321,800	4,700	158,000	356,900	948,700
可燃物	12,800	22,300	400	12,600	28,600	67,200
不燃物	44,900	106,300	1,300	44,300	99,900	306,300
内						
コンクリートがら	92,900	174,800	2,800	91,700	207,000	520,400
金属	4,800	10,100	100	4,700	10,700	29,600
木くず	4,800	8,300	100	4,700	10,700	25,200

■想定する地震災害でのし尿推計発生量

対象地震	都心南部直下地震	三浦半島断層群の地震	神奈川県西部地震	東海地震	南海トラフ巨大地震	大正型関東地震
発生量(kℓ/日)	9	19	1	10	15	50
仮設トイレ必要数(目安)	105	215	10	111	177	590

■想定する地震災害での避難所ごみ推計発生量

対象地震	都心南部直下地震	三浦半島断層群の地震	神奈川県西部地震	東海地震	南海トラフ巨大地震	大正型関東地震
発生量(g/日)	3	6	0.5未満	5	7	15
避難所避難者数(人)	3,510	6,590	520	5,560	8,850	18,130

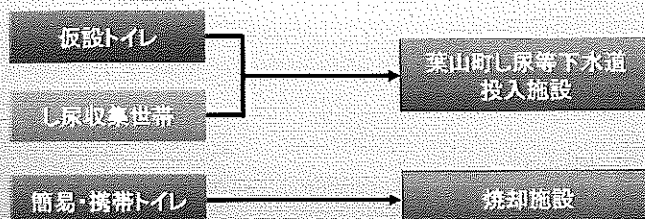
■想定する風水害での推計発生量

対象災害	昭和41年台風4号	昭和36年集中豪雨
発生量(t)	943	8,893
可燃物	40	391
不燃物	643	6,261
内訳 (t)		
コンクリートがら	90	880
金属	5	53
木くず	19	187
その他	5	53
土砂	110	1,067

災害廃棄物の処理の流れ

(1) し尿

災害により水洗トイレが使用できない場合は、仮設トイレ・簡易トイレ等を確保・設置します。
避難所に設置した仮設トイレ等から収集したし尿は、平時と同様葉山町の施設に搬入し、処理をします。施設が被災し処理が困難となった場合には、他自治体等に支援要請をします。

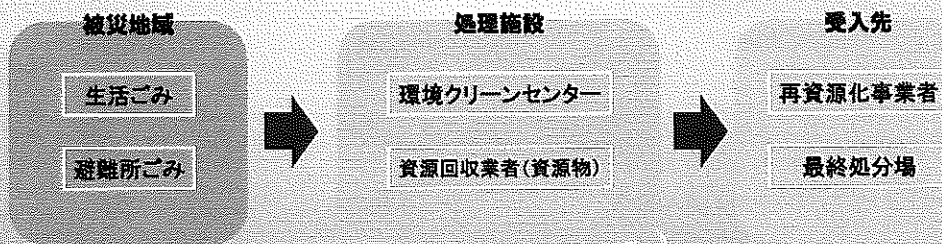


(2) 生活ごみ・避難所ごみ

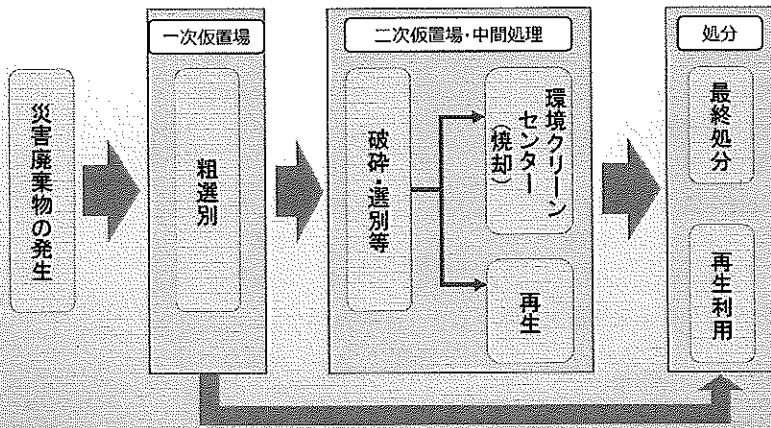
家庭から排出される生活ごみは、平時と同様の区分で分別収集し、環境クリーンセンターに搬入し、処理を行います。

避難所ごみについては、生活ごみに準じて分別しますが、避難生活で多く発生すると想定される容器包装プラスチック、ペットボトル、段ボール、衣類等や、使用済みの携帯トイレ・簡易トイレ等の廃棄物については、それらを踏まえて分別・保管します。

生活ごみ・避難所ごみの分別区分や収集方法、収集頻度等は、市民及び避難者に速やかに周知します。



(3) 災害廃棄物



仮置場の必要面積

最大269,100m²

対象地震	災害廃棄物発生量(t)	仮置場の必要面積(m ²)
都心南部直下地震	160,190	46,300
三浦半島断層群の地震	321,750	91,000
神奈川県西部地震	4,800	1,400
東海地震	158,050	45,700
南海トラフ巨大地震	356,930	103,200
大正型関東地震	948,550	269,100

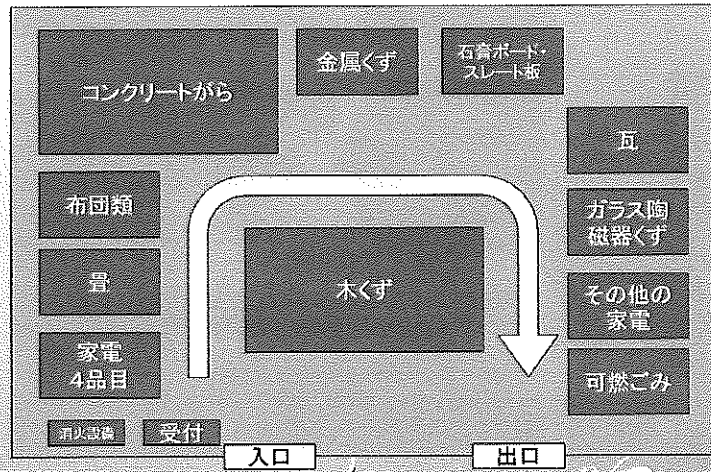
対象風水害	災害廃棄物発生量(t)	仮置場の必要面積(m ²)
昭和41年6月28日台風4号	910	230
昭和36年6月28日集中豪雨	8,900	2,200

仮置場の候補地

地区	場所	面積(m ²)	土地規制等
池子	第一運動公園	55,576	
	アザリエ山下公園	3,072	土砂・津波
	披露山公園(駐車場)	1,716	
小坪	小坪海浜公園	3,482	
	小坪飯島公園	5,225	
沼間	アーデンヒルつどいの広場	5,894	津波
	グリーンヒルつばき公園	2,120	一部土砂・津波
	沼間三丁目公共公益施設整備地区	22,000	
久木	久木中小共同運動場	23,273	
面積合計		120,642	

災害発生時の仮置場の設置・運営

- 発生量の推計
- 仮置場の選定
- 仮置場の管理・運営
- レイアウト
- 市民周知



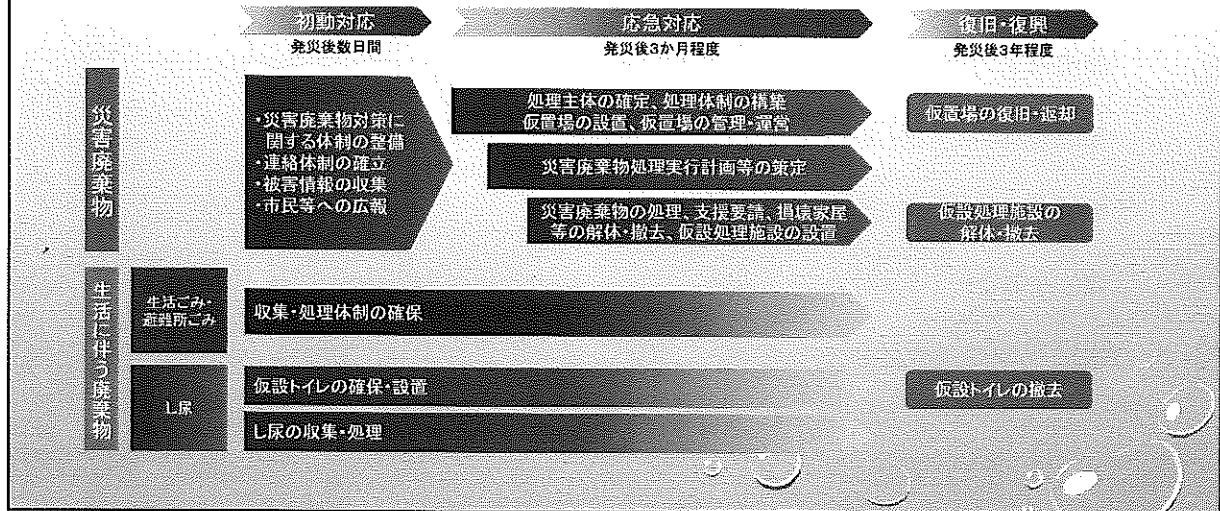
災害廃棄物処理可能量

項目	焼却施設	粗大ごみ処理施設	最終処分場
計画処理能力(残容量)	140t/日	30t/日	3,406m ³
年間最大処理可能量	30,240t/年	7,488t/年	—
直近の年間処理量	16,348t/年	883t/年	0m ³
災害廃棄物処理可能量	13,892t/年	6,605t/年	3,406m ³

【年間最大処理可能量の算出】

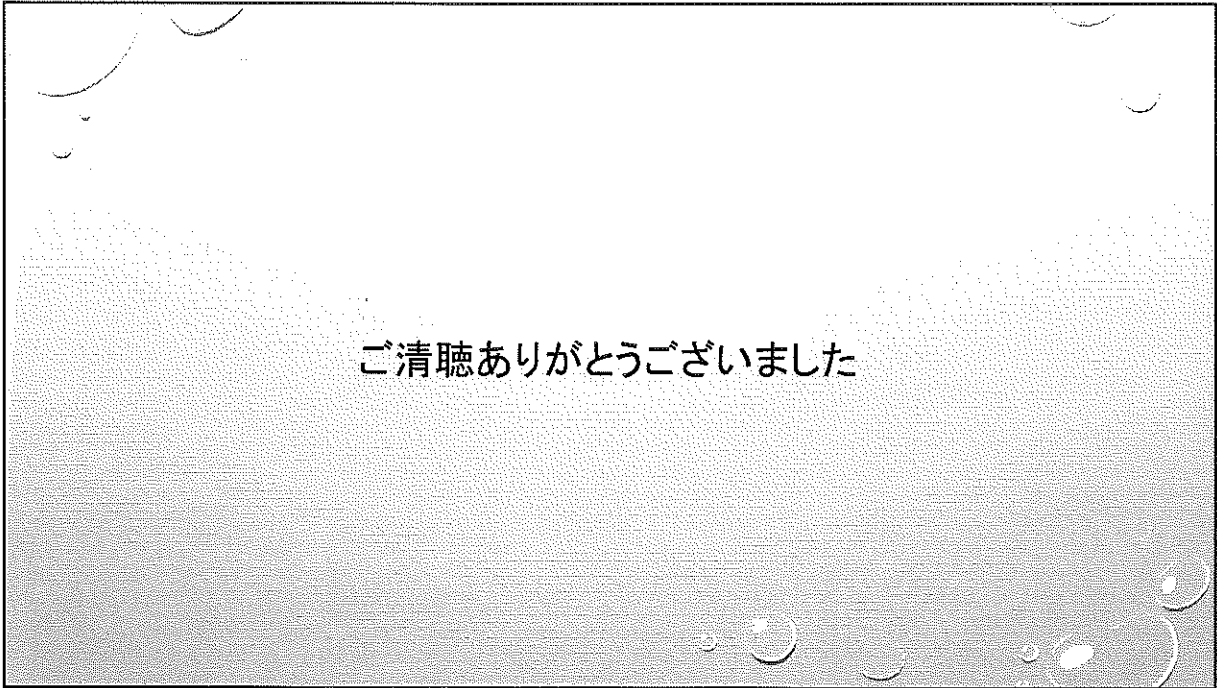
	施設規模	稼働日数	負荷率	
焼却施設	140t/日	× 270日	× 0.8	= 30,240t/年
粗大ごみ処理施設	30t/日	× 312日	× 0.8	= 7,488t/年

発災時の処理スケジュール



本計画策定へ向けての今後のスケジュール

R2年10月	11月	12月	R3年1月	2月	3月
市民説明会				パブリックコメントの実施	計画の策定・公表
●第1回審議会 (諮問)	●第2回審議会		●第3回審議会 (答申)		



ご清聴ありがとうございました

